



写真1 入谷朝顔まつり

昔も今も活気あふれる街 ー御徒町ー

(公財)日本産業廃棄物処理振興センターは、2023年5月に千代田区麹町二番町から台東区上野へ事務所を移転している。新旧の所在地である「上野」と「番町」は、江戸時代に活躍した武士の階級によって異なる町の様相を呈している。

「上野」は、1962年「住居表示に関する法律(住居表示法)」の施行により、1964年に「仲御徒町」から変更された地名である。かつて「御徒町」は、江戸時代、大名が外出する際に行列の先を歩いて先導するなどの護衛や雑用をした下級武士のうち、馬に乗ることが許されていなかった武士「御徒」(おかち)の住まいがたくさんあった。江戸時代の中頃になると、生活に困窮した「御徒」達は様々な副業を行った。中でも屋敷の庭を利用した朝顔の鉢栽培が有名で、今では夏の風物詩となった入谷の朝顔まつり(写真1)の発祥は、御徒町の徒士組が趣味と副業に始めたのが最初と言われている。

「御徒町」は武士の町から商人の町となり、現在は駅名や店名として多く存在する。「御徒町」駅周辺は、上野駅と繋がる活気あるアメヤ横丁(写真2)をはじめとする繁華街として上野経済圏を形成するまでとなった。

<参考>

東京の観光公式サイト

<https://www.gotokyo.org/jp/index.html>



写真2 アメヤ横丁